

Santtu-Matias Rouvali

conductor

サントウ=マティアス・ロウヴァリ 〈指揮〉

© Kaapo Kamu

“つい先頃、伝統あるフィンランドの優れた指揮を、大きな関心をもって聴いた”

としてガーディアン紙に迎えられた、サントウ=マティアス・ロウヴァリは、タンペレ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者、コペンハーゲン・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者である。そして、2017年/18年からイェーテボリ交響楽団の首席指揮者に就任することが決まっている。

ロウヴァリはシベリウス音楽院で指揮を学び、レイフ・セーゲルスタムのほか、ヨルマ・パヌラ、ハンヌ・リントゥらにも師事した。すでにフィルハーモニア管弦楽団、ロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団などを定期的に指揮しており、2016年/17年は、BBC交響楽団、ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、バンベルグ交響楽団を指揮する。またイェーテボリ交響楽団の首席指揮者として、今シーズンに2つのプログラムを指揮することになっており、マルク=アンドレ(マルカンドレ)・アムラン(ピアノ)と、トルス・モルク(チェロ)とのプログラムとの共演に加え、バルトク「管弦楽のための協奏曲」、ヤナーチェク「タラス・ブーリバ」を指揮する。10月には、ローザンヌ室内管弦楽団のヨーロッパツアーで同楽団にデビュー、また2017年5月、すでに東京交響楽団と2度の共演で成功を収めている日本で、タンペレ・フィルハーモニー管弦楽団と共にツアーを行う。北米では、すでにシンシナティ交響楽団とミネソタ管弦楽団にデビュー、ロサンゼルス・フィルハーモニックと共演するため、再びアメリカで指揮をする予定だ。

最新のCDは、ティモ・コルホーネン(ギター)/オウル交響楽団とキンモ・ハコラと細川俊夫のギター協奏曲(オンディース・レーベル)を、またパイバ・スクリデ(ヴァイオリン)/タンペレ・フィルハーモニー管弦楽団とニールセンとシベリウスのヴァイオリン協奏曲(オルフェオ・レーベル)を2015年にリリースしている。

オペラでは、これまでにビゼー「カルメン」、モーツァルト「魔笛」をウェスト・コースト・コッコラ・オペラで、またヴェルディ「運命の力」をタンペレ・オペラで指揮している。

田部京子 〈ピアノ〉

Kyoko Tabe, piano



© Akira Muto

東京芸術大学附属高校在学中、日本音楽コンクールに最年少で優勝。ベルリンで学びミュンヘン国際音楽コンクール(ARD)など受賞多数。バイエルン放送響、バンベルグ響、モスクワ・フィルとの共演ほか、世界のトップアーティストから共演者に指名され厚い信頼を寄せられている。CDは30枚以上リリース、国内外で特選盤に選出。これまでに『シューベルト・チクルス』、『シューマン・プラス』、『BBワークス <ベートーヴェン&ブラームス>』のリサイタルシリーズが大成功を収めており、2016年秋からは新リサイタルシリーズ『シューベルト・プラス』がスタート、好評を得ている。上野学園大学教授、桐朋学園大学特任教授。

オフィシャルHP / <http://www.kyoko-tabe.com>

堀米ゆず子 〈ヴァイオリン〉

Yuzuko Horigome, violin



© T.Okura

1980年エリザベト王妃国際音楽コンクールで日本人初の優勝を飾って以来、ベルリン・フィル、ロンドン響、シカゴ響など世界一流のオーケストラ、アバド、小澤、ラトル、アルゲリッチ、クレメールなど世界的アーティストとしばしば共演。2013年からイタリア、14年からはイギリスでマスタークラスを開催。日本でも多くのプロジェクトを手掛ける。CD録音も数多い。16年5月より仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門審査員長に就任。16年秋にはカメラータ・ザルツブルクとモーツァルトのヴァイオリン協奏曲全曲演奏会を行い絶賛を浴びる。現在、ブリュッセル王立音楽院教授、マーストリヒト音楽院教授。使用楽器は、ヨゼフ・ガールネリ・デル・ジェス(1741年製)。

公式HP / yuzuviolin.com

Tampere Philharmonic Orchestra

タンペレ・フィルハーモニー管弦楽団



タンペレ・フィルハーモニー管弦楽団(フィンランド語:Tampere Filharmonia)は、97名の音楽家を擁するスカンジナビアの主要なオーケストラのひとつ。2015年にはその創立85周年を祝った。

2013年8月には、前任者のハンヌ・リントゥからフィンランド人指揮者のサントウ=マティアス・ロウヴァリが芸術監督に就任。リントゥの前任者は首席指揮者のヨーン・ストルゴーズで、さらに前任はエストニア人の桂冠指揮者エリ・クラスであり、ヨウニ・カイパイネンが専属作曲家として務めていた。

1990年には、優れたコンサート・ホールであり、また会議場でもあるタンペレ・ホールの完成とともに、オーケストラが文字通り“すばらしい新世界”へと移行した。コンサート・ホールが併設されたこの巧みに改築された施設は、客席数1,800を持ち、今後のオーケストラのさらなる芸術的飛躍を予見させるものである。

冬季には、毎週金曜日にオーケストラの演奏会が、また日曜日の午後には「牧神の午後」と銘打った室内楽のシリーズが開催されている。またオペラやバレエのオーケストラとしても活動し、タンペレ・ビエンナーレ現代音楽祭へも定期的に出演している。

タンペレ・フィルハーモニー管弦楽団では、その特色を生かした子供や若者に向けた教育プログラムを多数企画している。このような試みをフィンランドで開催したのは、このオーケストラが初めてである。

オーケストラには近年、ハンヌ・リントゥ、エリ・クラス、ヨーン・ストルゴーズ、トーマス・オリラやレイフ・セーゲルスタムなどの指揮者による録音がオンディース・レーベルからリリースされ、50種もの録音が国内外で販売されている。最近の録音は、ジョルジェ・エネスク、マックス・レーガー、ユッカ・ティエンスー、ヨウニ・カイパイネン、エイナル・エンゲルンド、ペトリス・ヴァスクス、ジョン・コリリアーノ、アルマ・マラー、レオ・ブローウェル、ロベルト・シューマンとジャン・シベリウスの作品を収録したものがある。

その多くの録音が、カンヌ・クラシカル・スペシャル・アワードより2004年のディスクとしてリストに挙がっており、そのほか5つの賞に輝くなど、素晴らしい評価を受けている。2007年春にリリースしたユッカ・ティエンスー作品の録音は、IFPIフィンランドのエマ・アワードにノミネートされた。

1930年に創立され、1947年からタンペレ市によって運営されているこのオーケストラは、エーロ・コソネンが率いた37年の間にプロのオーケストラとしての評価を獲得しその地位を確固なものとした。オーケストラは、これまでにイギリス、オランダ、スカンジナビア、エストニア、ドイツ、スペイン、アメリカなど世界で公演を行っている。